

在籍校名 朝倉市立立石小学校  
職・氏名 教諭 井上 智美

## 研 修 報 告 書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

### 記

#### 1 研修種別

D 福岡県教育センター研修員

#### 2 主題研修について

研究主題 教職員が組織的に取り組む人権教育の推進に係る一方途

－人権が尊重される授業づくりサイクルにおける人権教育担当者の働きかけを通して－

##### (1) 研究のねらい

###### ア 課題の背景

「人権教育を取り巻く諸情勢について」（令和4年3月）が「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」策定以降の補足資料として公表された。この中で、個別的な人権課題への対応など、人権をめぐる近年の様々な動向を踏まえ、全ての学校において人権教育のより一層の推進が必要であると指摘されている。在籍校においても、生活背景や家庭環境等が異なる様々な児童が在籍している。すべての児童が、安心して豊かな学校生活を送るためには、分かる授業、友達との関わり、教師との信頼関係をつくっていくことが大切である。しかし、児童の学習意欲や習熟の度合いを把握し、課題を複数準備したり、友達と協力して活動できる場を工夫したりするなど、人権が尊重される授業が十分になされている状況とは言えないことが教職員アンケートから明らかになった。また、大量退職・大量採用に伴い、先輩教員から若年教員への授業づくりや児童への声かけなどの知識・技能の伝承がうまく図られていない状況にもある。児童の人権が尊重され、一人一人が大切にされていることを実感できる学校をつくるためには、教職員が一体となり教育活動全体を通じて、人権教育を推進していくことが重要となってくる。そこで、人権尊重の視点に立った学校づくりを推進していくために、人権が尊重される授業づくりに焦点を当て、組織的に取り組む必要があると考え、本主題を設定した。

###### イ 研究の目的

人権教育の推進において、教職員が組織的に取り組むために、人権が尊重される授業づくりサイクルにおける人権教育担当者の働きかけの有効性を明らかにする。

##### (2) 研究の構想

###### ア 主題の説明

###### (ア) 主題について

「教職員が組織的に取り組む」とは、在籍校の重点目標の達成を目指し、教職員一人一人が同じ方向に向かって、目的や方法を共有し、目指す児童の姿に向かって進んでいくことである。本研究での「組織的に」とは、人権教育を中心に据えて、教職員一人一人が人権尊重の視点に立った学校づくりに主体的に取り組むことである。「教職員が組織的に取り組む人権教育の推進」とは、児童の人権が尊重され、児童一人一人が大切にされたり互いのよさや可能性を発揮できたりするために、教職員が一体となって人権教育に取り組むための校内推進体制を確立するとともに、その中で教職員自身が人権尊重の理

念を理解・体得し、教育活動全体を通じた人権教育の取組が、学校・各学級全体で実践されることである。以上のことを踏まえ、本研究で目指す教職員の姿を次の三つで捉える。

- 学校として目指す児童の姿と人権教育を通じて育てたい資質・能力との関連を踏まえ、指導方法を共通理解している。 【目的共有】
- 教職員間でコミュニケーションを図り、人権が尊重される授業づくりにそれぞれの発想や工夫を取り入れながら、自分の授業の改善に生かしている。 【相互作用】
- 人権が尊重される授業づくりにおける成果と課題を共有し、協働してよりよい実践をつくり上げ、児童の実態に合わせた新たな実践を生み出そうとしている。 【価値創造】

#### (4) 副題について

「人権が尊重される授業」とは、日々の授業において、教職員が児童一人一人を大切にし、児童がお互いのよさや可能性を発揮できる授業のことである。具体的には、自己存在感をもたせる支援の工夫、共感的人間関係を育成する支援の工夫、自己選択・決定の場の工夫がなされている授業を指す。「人権が尊重される授業づくりサイクル」とは、人権が尊重される授業を実践していくために、人権教育に係る福岡県教職員指導力等達成目標「人権が尊重される学習活動づくり」を参考に、1サイクル授業構想(P段階)、2サイクル授業展開(D段階)、3サイクル授業評価と改善(C・A段階)の三つのサイクルを位置付けたものをいう。「人権が尊重される授業づくりサイクルにおける人権教育担当者の働きかけ」とは、人権教育担当者が中心となって、人権が尊重される授業づくりが行われるよう、各サイクルのそれぞれの段階に応じた、目的と方法や進め方を教職員間で共有する場を設定したり、目的達成に向けた共通実践を教職員に提案したりすることである(図1)。

	事前	1サイクル(授業構想)9・10月【P】			2サイクル(授業展開)10・11月【D】			3サイクル(授業評価と改善)11・12月【C・A】			事後
		P	D	C・A	P	D	C・A	P	D	C・A	
内容	人権教育担当者	実践計画	共通実践	評価・改善	実践計画	共通実践	評価・改善	実践計画	共通実践	評価・改善	人権教育委員会
		ミニ研修Ⅰ	共通実践	ミニ研修Ⅱ	ミニ研修Ⅰ	共通実践	ミニ研修Ⅱ	ミニ研修Ⅰ	共通実践	ミニ研修Ⅱ	
担当者教育	具体的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態と人権教育を通じて育てたい資質・能力の説明</li> <li>人権が尊重される授業づくりの視点についての説明</li> <li>人権が尊重される指導案のモデルの提示及び説明</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>人権が尊重される授業の実施と動画による共有</li> <li>実施した授業の動画等の共有と活用のポイントの説明</li> <li>共有した情報を活用を促す。</li> <li>記録したものを共有できるようにする。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>成果と課題の整理</li> <li>取組後の児童の実態を把握</li> <li>人権・同和教育部を開き、各学年の実践の共通理解を図る。</li> </ul>			
キャリア	若年	人権教育を通じて育てたい資質・能力について理解し、授業展開に位置付けることができる。			児童の発達段階に配慮し、人権教育を通じて育てたい資質・能力を位置付けた授業展開ができる。			児童一人一人の生活背景や学習状況を把握し、適切な指導ができる。			
目標	以上	人権教育に関する自校の教育課題を踏まえ、指導計画が立案できる。			児童の発達段階に配慮し、人権教育を通じて育てたい資質・能力を位置付け、効果的な手法を採用した教科等の授業展開ができる。			人権教育に関する自校の教育課題を踏まえ、適切な授業評価に基づく授業改善を主体的に行うことができる。			

図1 人権が尊重される授業づくりサイクルと人権教育担当者の働きかけ

#### イ 研究の内容(図3)

##### (7) 人権教育の要となる分掌(図2)

人権教育の推進の要となるのは、徳力向上プロジェクトチームの人権・同和教育部である。人権・同和教育部は、人権教育担当者を中心に各学年・特別支援学級から1名ずつの8名で構成されている。人権教育に係る決定事項は、学年担当を通じて、各学年に働きかける。人権が尊重される授業づくりサイクルを実践したことから生じた成果と課題は人権・同和教育部で集約される。また、必要に応じて他のプロジェクトチームと連携していく。

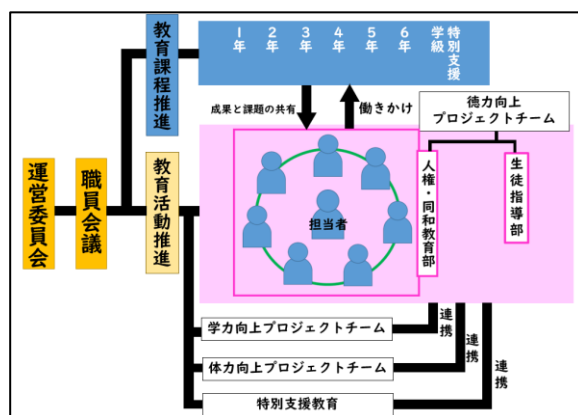


図2 抜粋した校務分掌組織図

##### (4) 共通実践の充実を図るミニ研修Ⅰ、ミニ研修Ⅱの設定

共通実践とは、人権が尊重される授業づくりサイクルにおける各サイクルに位置付けたD段階の授業のことをいう。目指す児童の姿から明らかになった人権が尊重される授業づくりに必要な取組を学

校全体で取り組む。また、この共通実践は、運営委員会や職員会議を通して学校組織として共通理解を図り、組織的に取り組むこととする。共通実践の成果は、ICTを活用して集約し、問題点が生じた場合には人権・同和教育部会を招集できるようにする。共通実践を充実したものにするために、P段階でミニ研修Ⅰを、C・A段階でミニ研修Ⅱを設定する。ミニ研修Ⅰやミニ研修Ⅱにおいて、人権・同和教育部が、適時共通実践中に所属する学年に取組の様子や取組の進捗状況を聞くなどの働きかけを行う。ミニ研修Ⅰでは、事前に全職員で共通理解した内容を基に学年で具体的な取組を確認する。そして、その目的や内容を踏まえ、人権・同和教育部の学年担当を中心に共通実践の内容を決定する。ミニ研修Ⅱは、共通実践における学習内容や手立ての報告、成果と課題を共有する場とする。また、次サイクルの方向性を明確にする。

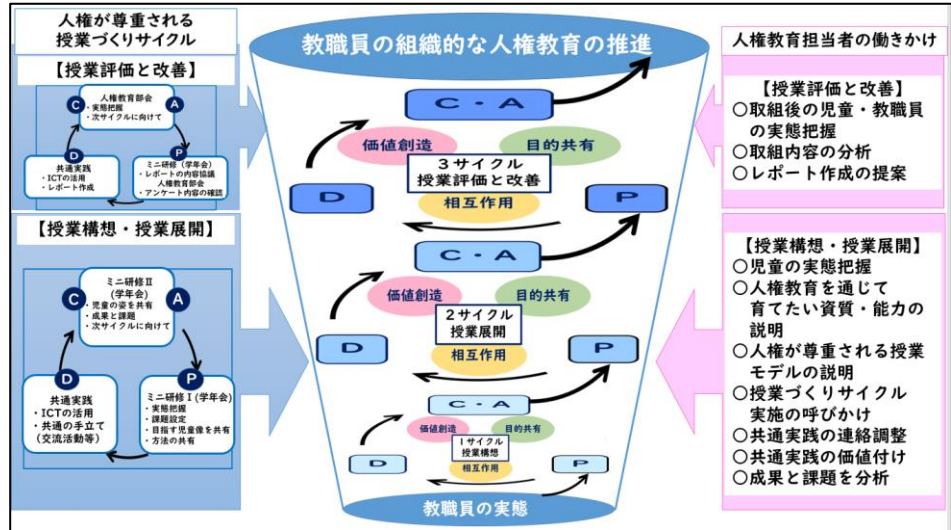


図3 研究構想図

ねらい 児童の実態を捉え、目指す児童像の共有を図り、人権が尊重される授業づくりが実施できるようにする。

(4) 各サイクルにおける人権教育担当者の働きかけ

人権教育に係る福岡県教職員指導力等達成目標ステージ発展①を参考に、人権教育担当者は人権が尊重される授業づくりサイクルの各サイクルで働きかけを行う。1サイクルでは授業構想について、人権教育に関する自校の教育課題を踏まえ、指導計画の立案に関わる内容を説明し、人権が尊重される授業づくりの構想ができるようにする。2サイクルでは授業展開について、児童や地域の実態に応じ、実践を集約し活用できるようにする。3サイクルでは授業評価と改善について、2学期の人権教育全体計画に基づいた、人権が尊重される授業づくりの評価に向けた働きかけを行う。

(3) 研究の実際

ア 事前の活動

ねらい	児童の実態を捉え、目指す児童像の共有を図り、人権が尊重される授業づくりが実施できるようにする。
人権教育担当者の働きかけ	・人権教育を通じて育てたい資質・能力の説明をし、目指す児童像の共有を図ることを提案する。 ・人権が尊重される指導案モデルの提示及び説明をする。 ・人権が尊重される授業づくりサイクルの見通しをもつことができるように、具体例を提示する。

(7) 職員研修会（令和4年9月15日）

職員研修会では、学校教育における人権教育の理解を深め、学校全体として人権教育における目指す児童の姿を共通理解した。1学期に実施した児童のアンケート結果を基に、各学年で協議する時間を設定し、児童の実態（資料1下線部）や、目指す児童像に向けてどのような手立てが必要かを話し合った（資料1波線部）。全体交流では、各学年から積極的に協議の内容が出され人権教育を通じて育てたい資質・能力の技能的側面の要素の一つである共感力を育てていくという合意形成を図る姿が見られた（表1）。また、人権が尊重される指導案モデルを提示し、今後実践していく人権が尊重される授業づくりサイクルの共通理解を図った。

A 教諭	先生がこうしなさいって言ったからこうしてますみたいな子供が多いと思う。
B 教諭 担当者	そうそう。自己決定の経験が少ない。
B 教諭	だから、教師が自己決定する活動を仕組まないと。今後、どんな手立てを打っていかかか大事なと思う。どのように学習の中に取り入れていかかですね。

資料1 職員研修会でのA学年の協議の様子

表1 各学年の育てたい資質・能力

1年	技能的側面（児童同士での話し合いの場を設け、相手を受け入れる力）
2年	相手を受け入れたら、自分の考えを伝えたりする力
3年	技能的側面（自分の気持ちをうまく伝えられる力）
4年	自己決定する力
5年	技能的側面の共感力やコミュニケーション能力
6年	技能的側面の共感力や人間関係調整力
特別支援	自分の気持ちをうまく表現する力

#### (イ) 人権が尊重される授業づくりに向けた打合せ

人権教育担当者は、人権が尊重される授業づくりサイクルについて、具体的にどのように取り組んでいくかを人権・同和教育部会の中で提案した。人権・同和教育部会では、在籍校で取り組んでいる「日常を問い直す授業で児童の共感力の高まりを見取っていく」や「日常的に交流活動を仕組み児童の共感力を高めていく」の二つの意見が出された。どちらの取組を行っていくかは、学年担当が中心となり、1サイクルのミニ研修Ⅰで決定して取り組むことにした。

#### (ウ) 事前の活動の考察

職員研修会において、1学期に実施したアンケート結果を基に、各学年で児童の実態や目指す児童の姿を共有する時間を設定したことにより、どの学年も活発に対話する姿が見られた。このことから、人権が尊重される授業づくりを進めていく上で職員研修会を設定したことは有効であったと考える。一方、人権が尊重される指導案モデルの提示や説明する時間を十分にもてなかったことが課題であった。そのため、人権が尊重される授業づくりに向けた打合せにおいて、再度人権が尊重される指導案モデルを提示し、人権が尊重される授業づくりサイクルの実施に向けた提案を行った。このことから、各学年の担当が自分の所属する学年に情報を提供する形をとることができ、教職員が組織的に取り組む内容が明確になり、目的共有の高まりにつながったと考える。

#### イ 1サイクル（授業構想）の実際と考察

ねらい	児童の技能的側面の共感力を育むために、ミニ研修Ⅰで手立ての共有を図り、人権が尊重される授業づくりを実践する。ミニ研修Ⅱで成果と課題を明らかにし、2サイクル（授業展開）への見通しをもつ。
人権教育担当者の働きかけ	・人権が尊重される授業づくりの視点についての説明をする。 ・1サイクル実施を呼びかける。 ・各段階での意見を集約し、児童の実態を把握する。

#### (ア) 1サイクル（授業構想）の実際

児童の技能的側面の共感力を高めていくために、人権教育担当者は人権が尊重される授業づくりについての提案を行った。実施する時期や各学年で実践していくことを伝えた。担当者からの提案を受けて、学年担当を中心にP段階ミニ研修Ⅰが行われ、表2に示すような各学年の取組内容が明らかになった。各学年の実態に応じて、「毎日1回以上交流活動を仕組んでいくこと」「どの教科で実践してもよいこと」などの意見が出された。C・A段階ミニ研修Ⅱは、学年担当が協議の内容を明確にして進められた（資料2点線部①）。児童の姿がどのようなであったか、ある教科で講じた手立ての有効性はどうか、ある教科で講じた手立ての有効性はどうかを熱心に話す姿が見られた（資料2下線部①、下線部②）。学年担当が、意図的に各担任が実践したことと実践した目的をつなぐ発言が見られた（資料2点線部②、点線部③）。このことにより、各担任が行った実践が価値付けられていることが分かる。各学年の1サイクルで出された成果と課題を集約したものを表3に示す。

表2 B学年とC学年の取組内容

B 学年	
目的	児童の共感力を養う。
手立て	毎日一回交流活動を取り入れる。 どの教科でもよい。
C 学年	
目的	相手を共感的に受け入れられるようにする。 自分の考えを伝えられるようにする。
手立て	一日一回交流活動を取り入れる。

B 学年担当	1サイクルで共感力を養うために、いろいろな教科で交流活動に取り組んでもらいました。どの教科で取り組んで、子供の反応がどうだったか①を交流していきます。生活で生き物を観察して記録カードをかく学習の時間にグループ活動で実践したところ、友達の作品をお手本にして、「あ、そういうことをかけばいいんだ」ということが分かった子もいたようでした①。 友達の考えを聞いて、「あ、それいいな」と思ったから、自分のカードに取り入れて充実したものになったというのですかね。② 図工のスタンプの活動で、班に一つ大きい画用紙に班のみんなで作品を作る活動をしました。その際に、友達の絵を見ながら、その使い方を真似したり、友達が押したスタンプから違うものを協力して使うことができたりして②、班での活動で広がりがありました。 活動を見て、その良さをもらって広がったという感じですね。③
D 教諭	
B 学年担当	
E 教諭	
B 学年担当	

資料2 B学年のミニ研修Ⅱの様子

表3 1サイクルで明らかになった成果と課題

成果	・自分の考えを修正できる。 ・考えを表現することができていない子ができるようになった。
課題	・話を聞くこと。日頃から聞くという習慣を身に付ける必要がある。 ・話の型を作成したり積み上げていったりしないといけない。

#### (イ) 1サイクル（授業構想）の考察

ミニ研修Ⅱにおいて、共通実践で行った学習活動や手立てについて有効であったか、改善すべき点はどこか話し合う姿が見られた。また、表3に示すように人権が尊重される授業に取り組んだことで

児童の変容や今後継続して取り組むことに気付くことができた。このことにより、ミニ研修Ⅱを設定したことは自分の実践を振り返る場でもあり、他の教職員がどのような実践を行ったかを知る場にもなったことから相互作用の高まりにつながったと考える。

### ウ 2サイクル（授業展開）の実際と考察

ねらい	1サイクルの成果と課題を踏まえ、人権が尊重される授業づくりを行うための学習内容や手立てを決定し、人権が尊重される授業を実践する。
人権教育担当者の働きかけ	・人権が尊重される授業の内容や実施状況を確認する。（連絡調整） ・授業実践の集約をし、活用できるようにする。 ・ミニ研修Ⅰやミニ研修Ⅱで出された意見から実態把握を行う。

#### (ア) 2サイクル（授業展開）の実際

2サイクルの進捗状況を人権教育担当者が、学年担当に尋ね、実施の状況を整理したり、「日常を問い直す授業」の日時の調整をしたりして、他の教職員が授業を参観できるようにした。「日常を問い直す授業」においては、2サイクルのD段階共通実践に位置付け、ミニ研修Ⅰでどのような学習を仕組むかが協議された。参観できない場合は、授業者が授業を動画で撮影し、どのような授業が実践されたのかいつでも視聴できるようにした。「日常を問い直す授業」実施後は、振り返りの時間を設け、その振り返りをミニ研修Ⅱで行うようにし、学習内容や手立ての共有が図られた（資料3下線部①、下線部②、下線部③）。また、日常的に取り組んでいる共感力を高める授業においては、1サイクルで明らかになった課題を意識しながら、1サイクルでは実践していなかった教科においても実践する姿が見られた。2サイクルで明らかになったことを表4に示す。

B学年担当	日常を問い直す授業の振り返りをします。どのような手立てを講じたか、児童の様子はどうだったか教えて下さい。
E教諭	児童が友達を手伝っている様子を撮って、導入段階で提示しました①。自分たちの日常に落とし込めて考えさせることができました。
B学年担当	私もE先生と同じで、事前に写真を撮っておきました。あと、最後に児童一人一人にその子のいいところを書いて渡しました②。子供たちがとても喜んでくれて、してよかったです。
F教諭	私も子供たち全員に書いてみました。得意なところだけじゃなく、頑張っているところや優しいところも書きました③。

資料3 ミニ研修ⅡのB学年の協議内容

表4 2サイクルで明らかになった成果と課題

成果	・自分が伝えた意見を友達に取り入れてくれたことで自信をつけた児童がいた。その後、毎日発表するようになった。 ・ペアでの交流というスモールステップを重ねることで、全体でも自分の考えを伝えることができるようになってきた。 ・交流活動で互いを認め合って、互いを大事にしていきたいということが分かった。 ・話すことを楽しむ児童が増えた。
課題	・今後学年が上がっても、自分の意見が伝えられるように素地をつくっていく必要がある。 ・型にはめることも大事だが、話すことが楽しいと思わせることの方がさらに大事ではないか。

#### (イ) 2サイクル（授業展開）の考察

2サイクルでは、「日常を問い直す授業」の振り返りと、1サイクル・2サイクルを通して実践したことの振り返りの二つの項目から成果と課題を明らかにした。2サイクルにおける成果と課題から、再度共通理解を図り（ミニ研修Ⅰの設定）実践を行ったことで、ミニ研修Ⅱでは技能的側面の共感力の高まった児童の姿が明らかになってきた。このことにより、ミニ研修Ⅰやミニ研修Ⅱを設定し、定期的に人権が尊重される授業づくりについて成果と課題を共有することは、常に児童の実態に応じた実践を生み出すことにつながっていく点で有効であったと考える。

### エ 3サイクル（授業評価と改善）の実際と考察

ねらい	1サイクル、2サイクルを通しての評価を行い、継続的に取組の改善を行っていく。
人権教育担当者の働きかけ	・アンケートの内容を確認し、提案する。 ・取組後の児童の実態把握及び教職員アンケートの分析をする。 ・レポートの提案をする。

#### (ア) 3サイクル（授業評価と改善）の実際

人権教育担当者は、1学期に実施した児童の「人権教育を通じて育てたい資質・能力のアンケート」の見直しを行い、アンケートの実施を提案した。また、2学期を振り返って、どのような取組を行った結果、どのように児童の姿に変容が見られたかをレポートにまとめていくよう提案した。その提案を基に、各学年ではどのように実践をまとめていくかを協議し（資料4）、自身の取組を振り返る姿が見られた。

F教諭	冬のレポートは、何についてまとめていきましょうか。みんなで取り組んだのは、「いいとこみつけ」だったよね。
B学年担当	そうでしたね。この授業が終わってからも、各クラスで取組を継続していたので、そのことも重ねてまとめるといいと思います。
E教諭	交流活動も頑張りましたよね。
F教諭	そうそう。交流活動についても、頑張って取り組んだよね。そのことも各クラスの実践を踏まえてまとめていけるといい。

資料4 3サイクルでの協議内容

#### (イ) 3サイクル（授業評価と改善）の考察

3サイクルにおいて、人権・同和教育部会では、児童に実施するアンケートと教職員に実施するアンケートの見直し、これまではどのような実態が明らかになったかを話し合うことができた。また、ミニ研修Ⅰでは、2学期を振り返り、学年での取組、各担任での取組をそれぞれが振り返るよい機会となった(前項資料4)。このことは、自己の今までの取組を振り返り、今後の指導方法の改善につなげることができる上で有効であったと考える。

#### (4) 全体考察

ミニ研修Ⅰやミニ研修Ⅱでの発言、実践後の実態調査を基に、組織的に取り組む教職員の三つの姿の分析を行った。

「目的共有」については、児童の様子を同じ学年の先生と共有しているという質問について高い数値を示した。このことから、人権教育担当者が目指す児童像に向けて職員研修会での協議を設定したり、サイクルごとにミニ研修Ⅰを設定し目的を共通理解したりすることで、取組に対する共有を毎回行ったことが有効であったと考える。また、資料5の教職員の記述から、児童の共感力の高まりを実感していることも分かる。

「相互作用」については、教職員が互いの指導の工夫を参考にした記述や、指導方法に込めた児童への思いを感じる記述が見られた(資料6)。

このことから、人権教育担当者が、2サイクルにおいて学習内容や指導の工夫を児童の姿とともに積極的に発信したことが有効であったと考える。

「価値創造」については、2サイクルのミニ研修Ⅱにおいて、さらに継続して目指す児童の姿に向けて、新たな実践を生み出す教職員の姿が見られた。このことから、人権教育担当者が、各サイクルのミニ研修で出された成果と課題を集約し、次のサイクルでその内容を活かすことができた点で有効であったと考える。また、目指す児童の姿を常に発信し、教職員がそれぞれで取り組むのではなく、組織的に実践をつくり上げることで、児童がお互いを尊重し合い、助け合っていこうとする姿が増えてきたことから、教職員の意欲も高まってきた(資料7)。これらのことが、教職員で協働してよりよい実践をつくり上げる姿につながったと考える。

#### (5) 研究の成果と今後の課題

##### ア 研究の成果

- 人権が尊重される授業づくりに焦点を当て、授業構想・授業展開・授業評価と改善にそれぞれPDCAサイクルを位置付け、各段階に応じて人権教育担当者を中心に各学年に働きかけを行ったことは、人権教育の組織的な取組につながった。
- 目指す児童の姿やそれに向かう指導方法を短期間の中で共有し、実践したことをすぐに振り返るために、共通実践の前後に、ミニ研修Ⅰとミニ研修Ⅱを設定したことで、人権が尊重される授業づくりの充実につながった。

##### イ 今後の課題

- 人権が尊重される授業に取り組みながら、さらに改善を図るとともに、学力向上プロジェクトチーム等の他の分掌との連携をどのように進めていくか具体化する必要がある。

#### <参考文献>

- ・ 福岡県教育委員会(令4) 『人権教育研修会資料集』
- ・ 福岡県教育センター(2016) 『学校変革の決め手』 ぎょうせい

子どもたちがお互いを尊重し合い、助け合っていこうとする姿が増えたと感じる。それは、学習中や教室、学校の中だけでなく、放課後の通学路や、学校に来ることができていない友達への関わりにも、みんなを大切にしたいという想いが感じられるようになってきたと感じるからだ。

#### 資料5 実態調査から目的共有の高まりが見られる記述

・他の先生の授業を見ていて、子供たちの気持ちを教師が考えることが大切だと感じた。そこから、子供たちの人権を考え、子供たち同士が人権を大切にするための手立てが生まれてくると思う。だから、私もそういう授業をつくっていききたいと思う。  
・子どもたちが本音で話せる雰囲気だったり揺さぶりが必要だと分かった。

#### 資料6 実態調査から相互作用の高まりが見られる記述

・友だちのよさに気付くことが自分のよさを認めることにつながり、友だちも自分も大切にできていくのかなと思ったので、もっと友だちと協力したり、発言や考えのよさに気付かせたりする活動を多く設定したい。  
・協力することで一緒に学ぶ仲間だと感じたり、関係がよくなることで自分は受け入れられていると実感できたり、自分の意見が採用されなくて嫌と思うことが減ると思うので、共感的人間関係を育成する支援をもっとしていく必要があると思った。

#### 資料7 実態調査から価値創造の高まりが見られる記述

このことから、人権教育担当者が、2サイクルにおいて学習内容や指導の工夫を児童の姿とともに積極的に発信したことが有効であったと考える。

「価値創造」については、2サイクルのミニ研修Ⅱにおいて、さらに継続して目指す児童の姿に向けて、新たな実践を生み出す教職員の姿が見られた。このことから、人権教育担当者が、各サイクルのミニ研修で出された成果と課題を集約し、次のサイクルでその内容を活かすことができた点で有効であったと考える。また、目指す児童の姿を常に発信し、教職員がそれぞれで取り組むのではなく、組織的に実践をつくり上げることで、児童がお互いを尊重し合い、助け合っていこうとする姿が増えてきたことから、教職員の意欲も高まってきた(資料7)。これらのことが、教職員で協働してよりよい実践をつくり上げる姿につながったと考える。

#### (5) 研究の成果と今後の課題

##### ア 研究の成果

- 人権が尊重される授業づくりに焦点を当て、授業構想・授業展開・授業評価と改善にそれぞれPDCAサイクルを位置付け、各段階に応じて人権教育担当者を中心に各学年に働きかけを行ったことは、人権教育の組織的な取組につながった。
- 目指す児童の姿やそれに向かう指導方法を短期間の中で共有し、実践したことをすぐに振り返るために、共通実践の前後に、ミニ研修Ⅰとミニ研修Ⅱを設定したことで、人権が尊重される授業づくりの充実につながった。

##### イ 今後の課題

- 人権が尊重される授業に取り組みながら、さらに改善を図るとともに、学力向上プロジェクトチーム等の他の分掌との連携をどのように進めていくか具体化する必要がある。

#### <参考文献>

- ・ 福岡県教育委員会(令4) 『人権教育研修会資料集』
- ・ 福岡県教育センター(2016) 『学校変革の決め手』 ぎょうせい

【添付資料】

人権が尊重される授業づくりサイクル

	活動	内容	○人権教育担当者の留意点	
事前の活動	実態調査	人権に関するアンケート調査	○ アンケートの検討、準備をし、実態をつかむ。	
		教職員へのアンケート調査		・「人権が尊重される授業づくりアンケート」を実施する。
	研修会	職員研修会	・人権に関するアンケート①②③から見える在籍校児童の課題を交流する。 ・人権教育を通じて育てたい資質・能力は何かを学年で話し合い、全教職員で合意形成を図る。	○ 人権が尊重される授業づくりがなぜ必要なのかを捉えさせ、今後の授業づくりについて見通しがもてるように、これから実践していく内容、方法、目的を全教職員で共通理解が図られるようにする。
人権教育部会		・人権が尊重される授業づくりについて話し合う。	○ 意見の集約をする。	
人権が尊重される授業づくりサイクル	1サイクル（授業構想）	ミニ研修Ⅰ（学年会）	○ 人権が尊重される授業づくりを行うために、どのような手立てが考えられるか学年で話し合い、取組内容を決定するように呼びかける。	
		共通実践	○ ミニ研修Ⅰで決定した内容を授業に取り入れ、授業実践を行うように伝える。	
		ミニ研修Ⅱ（学年会）	○ 試行した授業をもとに、学年で振り返り、成果と課題が明らかになるようにする。 ○ 意見の集約をする。	
	2サイクル（授業展開）	ミニ研修Ⅰ（学年会）	○ 1サイクルをもとに、どのような手立てが有効か学年で話し合い、取組む内容を決定する。	
		共通実践	○ ミニ研修Ⅰで決定した内容を授業に取り入れ、授業を実施するよう確認する。	
		ミニ研修Ⅱ（学年会）	○ 実施した授業をもとに、学年で振り返り、成果と課題が明らかになるように進行する。 ○ 意見の集約をする。	
	3サイクル（授業評価と改善）	人権教育部会ミニ研修（学年会）	○ 人権が尊重される授業づくりを実施したことで、明らかになった成果と課題を集約する。	
		アンケート（評価・改善）レポート作成	○ アンケートの準備、アンケートの実施を呼びかける。	
		人権教育部会	○ 人権教育部会を開き、成果と課題から今後の方向性を考える。	
	事後の活動	実態調査	・「人権が尊重される授業づくりアンケート」を実施する。	○ 教職員が取組を通して考えたこと、成果と課題を整理し、教職員全体で共通理解を図ることができるように分析する。

「人権教育に係る福岡県教職員指導力等達成目標」（平成31年）を参考に作成

人権が尊重される授業モデル〔T小版〕

※各段階の学習活動は、◇から適時選択して実施するものとする。

段階	◇学習活動 □指導方法の例	○教師支援
導入 【見つける】	◇課題を把握する。 <input type="checkbox"/> 前時までの流れ図の提示 <input type="checkbox"/> ロイロノートで既習学習を確認 <input type="checkbox"/> アンケート調査等の結果の提示 <input type="checkbox"/> 問題場面絵や写真等の提示 <input type="checkbox"/> 既習学習とのズレを自覚する発問  ◇見通しをもつ。 ※本時学習の見通しをもたせる。	○ 本時の学習課題をつかませるために、児童の既習事項や生活体験、興味・関心等を把握して課題設定の工夫をする。  ○ 学習の見通しをもつための支援を行う。
展開 【つくる・広げる】 【つくる・広げる】 【深める】	◇見通しをもつ。 ※課題解決の見通しをもたせる。  ◇自力活動（個別活動）をする。 <input type="checkbox"/> 複数の学習課題の中から自分にあった課題を選択する場の設定 <input type="checkbox"/> 多様な教材・教具の準備 <input type="checkbox"/> 教材・教具を選択する場の設定  ◇協働活動をする。（小グループやペア） <input type="checkbox"/> 協力して活動できる場の設定 <input type="checkbox"/> 考えをまとめるためのツールの準備 <input type="checkbox"/> 多様な表現スキルの提示	○ 学習の見通しをもつための支援を行う。  ○ 児童の学習意欲や習熟の度合いを把握し課題を複数準備したりヒントカードを与えたりできるように準備する。 ○ 課題解決のための情報や資料を準備し、その活用方法を適時助言する。 ○ 机間指導をし、困っている児童にヒントカードを与えるなどを行い、個別に助言を行う。  ○ 一人一人が自由に発言できる雰囲気づくりをし、自分の考えと異なる意見を拒絶せず、それを理解するように声かけを行う。 ○ グループの中で自分の考えを発表させるなどして、自分が必要とされているという実感を持たせる場面を設定する。 ○ 児童の実態や学習内容に応じて、学習形態や活動の場を多様に仕組む。
	◇協働活動をする。（全体） <input type="checkbox"/> ゆさぶり発問、切り返し発問 <input type="checkbox"/> 板書の構造化  ◇まとめをする。	○ 意図的な指名など、一人一人が活躍できるように工夫を行う。 ○ 発言しない児童に配慮するとともに、適切な支援を行う。  ○ 児童の実態や学習内容に応じた学習成果のまとめ方を提示する。
終末 【いかす】	◇振り返りをする。 <input type="checkbox"/> 児童の振り返りに対する価値付け、称賛 <input type="checkbox"/> 交流する時間の設定  ◇適用・活用問題を解く。 <input type="checkbox"/> 複数の課題を準備  ◇次時につなげる活動をする。	○ 振り返りの方法を選択させる。 ○ 分かったこと、がんばったこと、友達の考えのよさなどを明確にした振り返りを行い、お互いの学びを交流する時間を設定する。  ○ 学習課題を選択できるように複数の課題を準備し、個に応じてヒントカードを渡せるようにしておく。

「人権教育研修会資料集（令和4年4月 福岡県教育委員会）」授業づくりの視点を参考に作成